

日常点検について

建設機械の性能をフルに発揮させるためには正しい使い方はもちろん、適切な日常点検が欠かせません。日常点検をしっかりと行うかどうかで重大なトラブルの発生率が変わるだけでなく機械寿命も大きく違ってきます。点検整備を小まめに実施してベストコンディションで現場に臨みましょう。

□ 日常点検の目的

日常点検は、トラブル防止の第一歩！

日常点検には、その日自分が使用する機械に現れる不具合の兆候を早期に発見し、突発的なトラブルの発生を未然に防ぐという大切な目的があります。

エンジン周りの点検は特に重要！

特に大切なのがオイルのチェックです。

エンジンオイルや作動油の点検を怠ると出力の低下や内部の焼付き・損傷などが起き、オーバーホールや高額な修理が必要になるかも知れません。

ベストコンディションでしっかり作業が行えるか、仕事の道具として安全に使えるかなど、些細な状態の変化を把握するために日常点検は欠かせないようにしましょう。

日常点検には、始業前の点検、シフト毎の点検、終業時の点検などがありますが、今回は誰にでもできる「始業前点検」について具体的にご紹介していきます。



□ 始業前点検の手順

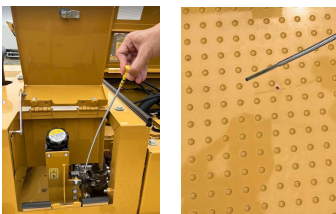
まず、平らで安全な場所を選び、取扱説明書で指定された駐機姿勢にしてください。そして作業の前に機械の周りを順に点検してみましょう。

※一般的な構造の320-07を例に説明しています。機種によって構造は異なります。



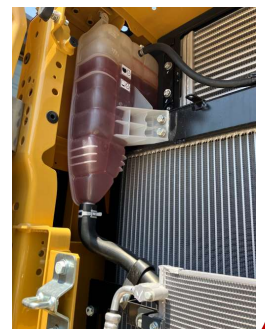
1 エンジンオイルと作動油の点検

エンジンオイルや作動油などの量を確認めながら、汚れの状態を確認してください。もし、エンジンオイルのオイルレベルが増えていたら、燃料が冷却水がオイルパンに流入している可能性があります。処置を怠ると、ベアリングの損傷やエンジン焼付きの原因となります。



2 ラジエータの点検

冷却水の量が十分かどうか確認してください。また、ラジエータコアのごみ詰まりなどもチェックしましょう。放置するとオーバーヒートの原因となります。



3 エアフィルタの点検

フィルタの目詰まりがないか確認してください。目詰まりはパワーダウンや燃料消費量が増えることにつながります。



プレクリーナー型エアクリーナ

耐久性も非常に優れており、樹脂製のラッチを採用しているため容易に脱着できます



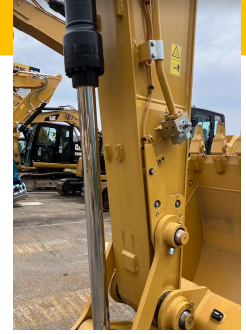
4 ウォータセパレータの確認

ウォータセパレータエレメント下部のボール部に水やごみがないか確認し、あった場合はドレイン（水抜き）しましょう。水がたまると錆やフィルタ詰まりが発生し、不調の原因となります。



5 各所油圧シリンダの点検

シリンダ部に油漏れがみられないか確認してください。油漏れの箇所から異物が侵入するとポンプやモータを損傷する恐れがあります。



6 各所ホース類の点検

油圧・燃料・ラジエータのホースに損傷はないか確認してください。亀裂があった場合は早めに交換しましょう。



7 グリスアップ

各可動部をチェックし、必要に応じてブッシュからはみ出るまで十分にグリスアップしてください。急ると接続ピン部の偏摩耗や破損、ロックボルトの脱落などの原因となります。



8 バケットの点検

バケット本体に亀裂はないか、またバケットツースは摩耗していないか確認してください。点検を怠ると、作業効率が低下したり、破損による作業中断につながります。



9 足回りの点検

履帯の張り具合を確認してください。履帯の張り過ぎは早期摩耗や燃料消費量増加につながります。ちょうどいい張り具合はアイドルとキャリアアロー間の緩みが50mm前後です。



10 車両下部の油漏れの確認

車両下部に油漏れがないか確認してください。



11 排気の色と音の確認

エンジンを始動したら、暖気運転時に排気の色とエンジンの音（異音がないか）をチェックしましょう。快調なエンジンの排気は無色透明に近い色をしています。

【排気の色による見分け方】

- 黒：不完全燃焼
- 白：生の燃料または冷却水が燃焼している可能性あり
- 青：エンジンオイルが燃焼している可能性あり

12 尿素水の確認

稼働前に尿素水残量を確認し、不足している場合は補給願います。

※誤って尿素タンクに燃料を補給しないようご注意ください

尿素レベルゲージ

